



東大史
オーナー (43)
（東京都世田谷区）
チームネット
（世田谷区）
甲斐徹郎代表 (60)

保

護猫を譲り受け飼育する事を前提とした賃貸住宅「SANCHACO（サンチャコ）」が、東急電鉄世田谷線「西太子堂」駅徒歩1分の場所に竣工した。

同物件は木造の3階建てで、2階と3階が1DKと1LDKのメゾネットタイプの住戸で、全4戸。ユニットなのは、約1年以内に保護猫を譲り受けることを入居条件としていることだ。

1階は、飲食営業可能なレンタル

スペース、入居者の共用スペース、ものづくりができる会員制ワークショップスペースの3つの空間で構成。飲食を取り扱うレンタルスペースを除く物件内を保護猫が常駐。入居者以外でも保護猫の譲り受けが可能だ。

東大史オーナー（東京都世田谷区）は同物件のコンセプトについて「この土地には父方の祖父が建てた工場があり、ものづくりをする場所であったことや、母の実家が動物の保護活動に熱心であったことから、両家の要素を受け継ぐ物件を建てたいと思いました」と話す。

さらに東オーナーは、過去に三重大学で地域活性に関する講義をしていた経験から、都市部でも「お互いさま」の精神を持って人と交流する文化が必要と考えた。

そこで、単身者が猫を飼育する場合、長期外出が出来ないなどの弊害

に着目。個人の力だけでは解決できない問題を、コミュニティを活かして解決する事業コンセプトのもと住宅のプロデュースを手掛けるチームネット（世田谷区）と提携。コミュニティのあり方を、猫の飼育を主軸に構想した。

同社の甲斐徹郎代表は、1階の空



保護猫と暮らす「SANCHACO」の外観

間設計にコミュニティが生まれる工夫を施した。レンタルスペースを「誰でも立ち寄れる半公共的な場所」、共用スペースとワークショップスペースを「保護猫と入居者・利用者が交流する場所」と位置付けた。それにより、猫に興味のある地域住民と猫好きという共通の価値観をもつた入居者とのコミュニケーションを図りやすくした。

猫の好きそうな裏路地や隠れ家的小店が多い三軒茶屋を、「猫っぽい性格の街」と例えた東オーナーと甲斐代表は、猫をハブに、入居者同士や猫の保護活動に関心のある人、地域住民との連携の輪が広がっていくことを期待している。